

ジャン・オーギュスト・ドミニク・アングル (パオロとフランチェスカ) 1819年

# アンジェ美術館展

## Les Chefs-d'œuvre des musées d'Angers

— 巨匠たちの奏でる〈雅な宴〉 —

2002 **11.1** FRI — **12.8** SUN

休館日=月曜日(但し、11/4日(月・祝)は開館、翌11/5日(火)休館)  
 開館時間=火~金曜日:午前9時30分~午後7時 / 土・日曜日・祝日:午前9時30分~午後5時  
 【入室はいずれも閉館30分前まで】 / 初日は午前10時開展示

入場料=一般1,000円(800円) / 高大生600円(480円) / 小中生300円(240円)

※( )内は前売りおよび団体20名様以上の料金  
 ※65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料  
 ※会期中の土曜日は小・中・高生入場無料

**高松市美術館** 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4  
 Takamatsu City Museum of Art Tel.087-823-1711

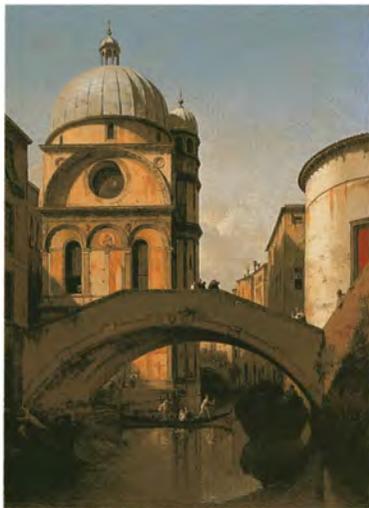
主催=高松市美術館 / 読売新聞大阪本社 / 美術館連絡協議会 / 西日本放送 後援=フランス大使館 協賛=花王株式会社 協力=JAL



ジャン=アントワヌ・ワトー〈待ちうけられる愛の宣言〉1716年頃



ジャン=バティスト・ラルマン〈日没の海景〉1761年以降



ランスロー=テオドール・デュルバン・ド・クリッセ  
〈ヴェネツィア、サンタ・マリア・デイ・ミラ・コリ聖堂の  
ファサードの眺め〉1837年



ロレンツォ・リッピー〈「偽り」の alegoria〉1650年頃



ジャン=オノレ・フラゴナール〈ケファロスとプロクリス〉1750-1755年頃



ジャン=シメオン・シャルダン〈果物、瓶と陶器〉1764年頃

## Les Chefs-d'œuvre des musées d'Angers

アンジェは、フランス中西部ロワール川流域の中心に位置し、14世紀に織られた美しく壮大な《黙示録》のタピスリーで知られます。

アンジェ美術館は、アンジェの貴族ピエール=ルイ・エヴェイヤール・ド・リヴォウ侯爵(1736-90)が蒐集した絵画コレクションを核として、1801年に創設されました。その後フランス政府からの寄託作品や、コレクター、アンジェゆかりの作家らによる寄贈と遺贈を受けながら、豊かな美術コレクションを築き上げてきました。

本展は、アンジェ美術館のコレクションより、17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ美術の名品を、絵画と彫刻約80点によって紹介するものです。その中心となるのは、フラゴナール、グルーズ、シャルダンに代表される18世紀フランスの優美なロココ美術です。なかでも、貴族たちが戸外で集う光景を描いた、ワトーとその周辺の画家たちによる「雅宴画(フェット・ギャラント)」は、典雅な音楽にもたとえられ、夢と現実が一つに響き合う美しく詩的な世界をつくりあげています。

さらにジロデ、ジェラルール、アングルなど、18世紀末から19世紀にかけての巨匠たちや、アンジェに関わりの深い画家、彫刻家の作品、あるいはロレンツォ・リッピーやティエポロ、カノーヴァの作品をおさめたイタリア芸術、17世紀北方絵画なども含まれる、多様な出品内容となっています。アンジェ美術館のコレクションを日本で初公開する本展は、200年の歴史を誇るコレクションの精華を通してヨーロッパ美術の大きな流れを展観できるまたとない機会となるでしょう。

### ギャラリートーク

#### 当館学芸員による展示作品の解説

当館学芸員が展示作品の解説をいたします。  
11月2日(土)・16日(土) 午後2時~/2階展示室にて

#### 美術館ボランティア「civi(シヴィ)」とともに展示作品の鑑賞

「アンジェ美術館展」会期中の毎日曜日および祝日の午前11時~と午後2時~の一日2回/2階展示室にて

### アートで遊ぼう! (作品を「じっくり見る」ための鑑賞プログラム)

#### Vol.4

#### 見てみたい、食べてみたいフランス美術!

当館学芸員と一緒に「アンジェ美術館展」を見てください。  
11月16日(土) 午前10時~11時30分  
対象:小学3~6年生・15名(事前申し込み制)

### 次回催し物のお知らせ

#### 知られざる西アフリカ美術展

2003年2月21日(金)-3月23日(日)



### 交通のご案内

JR四国-JR高松駅下車、南へ徒歩15分  
コトデン=瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分  
バス路線=紺屋町バス停下車、徒歩3分  
駐車場=美術館地下に公営駐車場  
(有料、乗用車144台収容)